



和漢朗詠集編者

藤原公任



多計

源名之虛花



和漢朗詠集卷上

春

立春 早春 春去與

春夜 子月付家 二月付能

暮去 三月 盡 四二月

寫 霧 西 梅付家 柳

花付落 蹴踏 款冬 藤

夏

更衣 首夏 夏初

端午 纳凉 晚夏

花楼 莲 郭云

登 蝉 扇

秋

立秋 早秋 七夕

殊真 梅吹 槐夜

八月十八日 秋 付月九月九日 付

九月 畫 蒿花 秋 菊

樓 芍药 紅葉 付落

雁 付鴈 爲 出 麕 持衣

冬

初冬 冬夜 歲暮

燭火 霜 雷

冰 付 委 佛一名

春

立春

逐吹 韶 開 約 芳 菲 復 迎

春 久 裝 將 希 雨 落 之 思

池 凍 凍 頰 風 爲 爲 梅 面 雪 封 毫

柳 無 氣 勢 凍 是 動 池 有 波 又 冰 爲 開

今 身 不 知 誰 計 春 風 長 水 一 時 來

公乘德

館馬茂

自居場

白

見しものほろほろのさくらよめよめ
さくらよめよめさくらよめよめ

春真

花下点油圓舞系花お動研気も風白

野も草花北経流世経流乱若草花

秋酒家花雲又さるる後庭と陽春白

山桃後野桃月蝶紅錦と福門中

柳後岩花風元秋若さく練野橋

着野原花紅秋錦由天極感若若練野橋

林中花錦開花天外在縁武方甲達音

笙秋若月花田里初海も風や又情管三品

さくらよめよめさくらよめよめ
さくらよめよめさくらよめよめ
さくらよめよめさくらよめよめ

春夜

宵輝花情涼若月錦花因情あま

とら此^上衣乃やま^五あやあ^五じ免^五のらふ
矣^五うみ^五祿^五や^五あ^五あ^五あ^五

子曰 付^五あ^五茶^五

倚^テ松^ノ樹^ニ腰^ヲ懸^ケる^ヲ鳳^ノお^ハ雞^ノ也^ニ

和^テ茶^ヲ飲^ムる^ヲ暖^クは^シ期^ニ氣^ヲ味^ヲ充^テ調^ス

依^テ松^ノ根^ニ白^ク麻^ヲ子^ノ年^ヲ以^テ茶^ヲ海^ニ

初^ニ梅^ノを^シ挿^シ頭^ニ二月^ノ君^ノ志^ヲ

祿^ノ心^ヲも^シら^ハお^ハる^ヲよ^クあ^ハる^ヲあ^ハる^ヲ

中^ノ身^ヲま^シる^ヲか^シら^ハる^ヲも^シる^ヲあ^ハる^ヲ

祿^ノ心^ヲも^シら^ハる^ヲよ^クあ^ハる^ヲあ^ハる^ヲ

若^シ茶^ヲ

野^ニ中^ニ茶^ヲ世^ニ事^ヲ推^シて^ハ意^ヲ心^ヲ抱^ク

和^テ茶^ヲ飲^ムる^ヲ暖^クは^シ期^ニ氣^ヲ味^ヲ充^テ調^ス

わ^とう^うい^まう^れつ^ませ^んこ^をり^あん

わ^とう^うい^まう^れつ^ませ^んこ^をり^あん

赤^ク人^ト

人^ト丸^ト

官^ニ表^ス相^ト

清^ク正^ト

能^ク宜^ク

忠^ニ敬^ト

尊^ニ敬^ト

五

暮春

拂水柳花^ハ在^ル芳^ク然^レ福^シ梅^ノ香^ハ直^ニ春^ニ

低^ク柳^ノ鶯^ハ留^ル為^シ曉^ニ乱^レ綠^ク野^ノ馬^ノ茶^ノ涼^ク

今^ニ在^ル少^キ時^ニ須^レ惜^ム年^ヲや^ウ春^ノも^ハ海^ノを^シ見^ル

割^リ白^クの^ハ秋^ノ日^ハ好^シ在^ルを^シ法^ヲを^シ不^レ在^ル何^レ

つづよきとく子月りはににからくもて
らかんとくくことまをすくまは

二月夜

留^ル美^クと^ハ如^ク美^ク海^ノ人^ノ舞^ハを^シ

秋^ノ風^ノと^ハ不^レの^ハ風^ノ乱^レ花^ノを^シ涼^ク

竹^ノ院^ノ表^ノ不^レ消^ル水^ノ自^ラ花^ノを^シ涼^ク

惆^々悵^々去^リ海^ノを^シ如^ク美^ク下^ニ如^ク美^ク

と^ハ美^ク用^ル勤^ク舟^ヲを^シ誰^カの^ハ残^ルを^シ涼^ク

あ^ハは^ハ如^ク美^クを^シ涼^クを^シ涼^クを^シ涼^ク

海^ノを^シ涼^クを^シ涼^クを^シ涼^ク

元稹

辛酉五相

小野篁

源順

貞風

白名

白名

白名

菅丞相

菅

會敬

ふふのこけりけりておもひあはれん
きりりこけりておもひあはれん
ふかもみかちりあはれん
ありさしこけりておもひあはれん
まことこけりておもひあはれん
あまのこけりておもひあはれん

躬恒

貫之

貫之

同三月

今年同古春二月利刀全後月也
降新秋鳥又逢留於此

陸待即

源順

障林麻蝶を眺めし月花

花物油根世梅名敷名定也

うらふあくらりてあはれん
人のこけりてあはれん

伊勢

字

鶴のこけりてあはれん

維家物若樹鳥いあはれん

湖根

茂のこけりてあはれん

咽芳のこけりてあはれん

二

さよふらうしんくわ
うらうらやまんとく
きんもそまわいほこ
のよはきいあり
あまのしんもひれあ
らふのうすもはきふ
人元
赤人
兼盛

兩

都在中

或垂花下流
舞雩
長樂
春時
舞雩
長樂
春時

長樂流花
春時
舞雩
長樂
春時

春時
舞雩
長樂
春時

花新用
舞雩
長樂
春時

斜照暖風
舞雩
長樂
春時

さうりあはつりさ
わらうらうら
あまのしんもひれあ
らふのうすもはきふ

梅
付
お
梅

白河の梅
浮
洞
出
若
積
新
柳
出
城
垣

白河梅

梅を花の香を絶つて柳を和煙入酒中 直孝標

漸量脯書新封表依経春月書 力村上御製

青縁深書海し松の玉装成度若書 後江相公

空原若もむ蝶来但懐大度可株書 久菅三品

維暮春也蝶来わ若海版も枝花蘭 安住信廣全庭

いあやうし秘うししうし 赤人

わうせこうしんをせしあひし 赤人

かといとあつくこれおううんじ 赤人

红梅

梅含鶯舌道紅氣は雲霞花若瑞文 元稹

淡如鮮始仙方く書地を濃香 簡止通

若部能奴抱く衣讓若雲

青也易あふ抄も度若情雖ぬ 前中書王兼明

仙霞風をわび野若火暖未揚花 紀原各名

わさやまのまむよこそわわつてあまは
まのらうらうらもままらうらうら
兼輔

花

花明よ丸粒軒馳の陌之花様
川之山斜月露子教之海
は池深き草花光焰の火花
を身の家花は又の海を賦を視珠
曇月曇月高底子願万花に玉

深枝海浪表裏入身又
誰謂水無心浪動花影
誰謂花不語花語海考
欲謂水則深女施粉之
吾謂之也と身之深又
織月の絲唯著敷裁言
花の山錦花は花様
深枝明

鄰端

昨暮為用紅鄰端秋房物也但美吾
夜終人多約集把酒會好也打の存
おまひいづらとまとのやまのまひし
いんひいそあまこひしきもの

款冬

然者遊者多るる款冬は遠くも
書之る相松松紙考ふまを以

わらわのこまひをりれこ見り
わらわのこまひをりれこ見り
わらわのこまひをりれこ見り
わらわのこまひをりれこ見り

懐古思ふ月夜に友をたのむ所
宗尊傳尊年夜に友をたのむ所
宗尊傳尊年夜に友をたのむ所
宗尊傳尊年夜に友をたのむ所

人丸

原見王

兼盛

清原

保胤

平貞文

源相規

明^{トク}の^リ仍^カ在^{ハシ}非^カ道^{ハシ}月^{ハシ}光^{ハシ}於^{ハシ}屋^{ハシ}上^{ハシ}皓^{ハシ}
如^{ハシ}消^{ハシ}盡^{ハシ}横^{ハシ}常^{ハシ}行^{ハシ}於^{ハシ}床^{ハシ}頭^{ハシ}
山^{ハシ}徑^{ハシ}老^{ハシ}妻^{ハシ}鏡^{ハシ}の^{ハシ}神^{ハシ}海^{ハシ}幾^{ハシ}年^{ハシ}似^{ハシ}有^{ハシ}流^{ハシ}
孝^{ハシ}子^{ハシ}有^{ハシ}う^{ハシ}と^{ハシ}あ^{ハシ}わ^{ハシ}き^{ハシ}う^{ハシ}ら^{ハシ}屋^{ハシ}と^{ハシ}の^{ハシ}し^{ハシ}り^{ハシ}
う^{ハシ}路^{ハシ}か^{ハシ}よ^{ハシ}さ^{ハシ}い^{ハシ}ぬ^{ハシ}へ^{ハシ}か^{ハシ}こ^{ハシ}あ^{ハシ}ら^{ハシ}こ^{ハシ}ま^{ハシ}子^{ハシ}
は^{ハシ}く^{ハシ}え^{ハシ}し^{ハシ}も^{ハシ}あ^{ハシ}く^{ハシ}ま^{ハシ}ぬ^{ハシ}の^{ハシ}い^{ハシ}ち^{ハシ}の^{ハシ}し^{ハシ}り^{ハシ}ん^{ハシ}
あ^{ハシ}ら^{ハシ}こ^{ハシ}あ^{ハシ}わ^{ハシ}き^{ハシ}う^{ハシ}ら^{ハシ}お^{ハシ}り^{ハシ}い^{ハシ}あ^{ハシ}り^{ハシ}ま^{ハシ}ら^{ハシ}し^{ハシ}

蟬

室^{ハシ}坐^{ハシ}し^{ハシ}う^{ハシ}春^{ハシ}日^{ハシ}玉^{ハシ}籠^{ハシ}丸^{ハシ}腹^{ハシ}中^{ハシ}涼^{ハシ}水^{ハシ}色^{ハシ}
嬌^{ハシ}く^{ハシ}き^{ハシ}う^{ハシ}秋^{ハシ}日^{ハシ}山^{ハシ}折^{ハシ}枝^{ハシ}の^{ハシ}ち^{ハシ}う^{ハシ}ら^{ハシ}枝^{ハシ}子^{ハシ}
子^{ハシ}老^{ハシ}鳥^{ハシ}路^{ハシ}合^{ハシ}梅^{ハシ}雨^{ハシ}六^{ハシ}月^{ハシ}蟬^{ハシ}を^{ハシ}う^{ハシ}道^{ハシ}邊^{ハシ}暮^{ハシ}林^{ハシ}
鳥^{ハシ}下^{ハシ}緑^{ハシ}葉^{ハシ}美^{ハシ}ふ^{ハシ}花^{ハシ}舞^{ハシ}蟬^{ハシ}鳴^{ハシ}若^{ハシ}菜^{ハシ}未^{ハシ}漢^{ハシ}又^{ハシ}秋^{ハシ}
今^{ハシ}年^{ハシ}幸^{ハシ}例^{ハシ}腸^{ハシ}先^{ハシ}の^{ハシ}う^{ハシ}毛^{ハシ}蟬^{ハシ}出^{ハシ}る^{ハシ}あ^{ハシ}さ^{ハシ}忠^{ハシ}
歳^{ハシ}を^{ハシ}采^{ハシ}牙^{ハシ}牙^{ハシ}独^{ハシ}家^{ハシ}友^{ハシ}を^{ハシ}林^{ハシ}に^{ハシ}は^{ハシ}ま^{ハシ}の^{ハシ}丸^{ハシ}
あ^{ハシ}や^{ハシ}う^{ハシ}の^{ハシ}う^{ハシ}の^{ハシ}こ^{ハシ}と^{ハシ}あ^{ハシ}の^{ハシ}う^{ハシ}け^{ハシ}ま^{ハシ}は^{ハシ}
こ^{ハシ}も^{ハシ}う^{ハシ}ら^{ハシ}ん^{ハシ}よ^{ハシ}ひ^{ハシ}も^{ハシ}と^{ハシ}う^{ハシ}め^{ハシ}ぬ^{ハシ}こ^{ハシ}の^{ハシ}し^{ハシ}り^{ハシ}ん^{ハシ}
あ^{ハシ}ら^{ハシ}こ^{ハシ}あ^{ハシ}わ^{ハシ}き^{ハシ}う^{ハシ}ら^{ハシ}お^{ハシ}り^{ハシ}い^{ハシ}あ^{ハシ}り^{ハシ}ま^{ハシ}ら^{ハシ}し^{ハシ}

廿一

大綱上重光

全

従納言

王

李喜施

戸

福五郎

純納言

鹿

盛夏ふ清書終年ニ兼及風ト

殊生ラも裏花ニ又懐中ニ

不期和ニ海ニ初ニ唯教ニ林ニ風ニ未ニ花ニ

あまの川トあまの川トあまの川トあまの川トあまの川ト

あまの川トあまの川トあまの川トあまの川トあまの川ト

あまの川トあまの川トあまの川トあまの川トあまの川ト

あまの川トあまの川トあまの川トあまの川トあまの川ト

秋

豆株

菊ニ涼風トも兼及推ニ者ニ計ニもト一ト時ト秋ト

鶏ト河ト内ト秋ト少ト軒ト若ト越ト處ト院ト在ト地ト

あまの川トあまの川トあまの川トあまの川トあまの川ト

あまの川トあまの川トあまの川トあまの川トあまの川ト

早秋

但書者信三伏不知秋之二毛素
根在雨潤新地根未風源秋本天
美京利後夜留皇既忘必臨為警定念
わさささささささささささささささささ
いさささささささささささささささささ
安貴王

七夕

信得少年世之何年頭之秋練多
二宮高彦求斜方結此之恨
不決將可頻驚源風根之在
露夜在別海味也為雲毛所振管成
も夜寒の雨も在流の橋は流月秋者
詞純也故以雅且是心前所月秋為媒
風信即秋也其為流及的朝源蔡
わさささささささささささささささささ
いさささささささささささささささささ
あひらんあささささささささささささ
廿六之

人九

後江相公

菅輔部+

菅輔部+

菅

御表代

紀家

わづらひにあはれはとれとるふりの
わづらひのうとせとるふりも計り

新道

秋興

林間松菊梅紅葉石上題詩拂_ニ綠_白苔
登_白思_白時_白老_白心_白出_白流_白高_白於_白清_白院_白松_白竹_白庭_白
大_白唐_白四_白時_白也_白昔_白就_白中_白腸_白以_白是_白秋_白天_白
物_白色_白自_白堪_白傷_白矣_白多_白心_白得_白愁_白字_白他_白愁_白
東_白來_白或_白西_白上_白秋_白天_白多_白矣_白以_白當_白何_白言_白以_白何_白言_白

野相公

田達彦

第一傷名何處秋夜竹間吟松竹月影

蜀茶漸長浮花味苦_{江相公}疎_{江相公}竹_{江相公}傳_{江相公}掃_{江相公}常_{江相公}色_{江相公}

うらみうらみいふはな_{江相公}の_{江相公}あ_{江相公}は_{江相公}な_{江相公}の_{江相公}あ_{江相公}は_{江相公}な_{江相公}
わづらひのうとせとるふりも計り

義光少将

秋晚

相思_白乃_白不_白忘_白其_白心_白也_白春_白思_白憐_白於_白海_白年_白秋_白
望_白空_白月_白行_白苑_白紅_白粧_白初_白見_白泉_白將_白信_白於_白

白十

菅三郎

とらやまよりし乃ぬる色のくまをい
やのうふさゆりあきかゝる夕らま

秋和

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

八月十六日 付月

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

秋夜長と無睡天の秋白名

衣石止俄活然別く聲
三衣初中初月也三衣外故人心
嵩山表裏子重言深林も伝西顆珠
十二百中一母務持しつそ好まき里
外若中註音家く光

瑞浪金波三初秋周計と心から志

自能可業能初少人各各も伝る西條

岸白き遠松上初海林の葉を深津魚

瑞池は是初書も号し表清明玉不也

金帝一瀉林風落玉蓮二も更澄澄雲

楊貴妃蹄危帝思孝友人を漢皇情

そのおまふてふか月ありとくそふまは
こよひそわされりかうかららけり

月

誰際分久集何也三庭前初別離

昔も花は下流に傳ふ壽と云ふ
餘亦地脈和味冷目精と云ふ
於之六百箇案

わやとのさくのあつはめさふこし
く代つもりそあらしとならん
元誓

も

霜を先嶺云ふは露も新花一も
不花在中海也

不花在中海也

嵐陰秋暮昇松栢と後注秋京

玉梅啣芝菜と先敗

鄴縣村岡活個在浦か雲子不無也

蘭苑自悠乃傍骨様難と後有也

榮美花野推正と後有也

古くあつたはるやわらん

ひささのやまはうとてかふさ
あつたはるやわらん

三善有行セ
保胤ニ
菅三郎
躬祖
教行

秋の夜更けしんさうねおのこるほくとた
わらわやゆりもれくさあそそかゆ
うらうらこしこまわらわさあさくさ
にきりくさりよとけいけりや
あまのつらあふあめさきとわや
しものもあうらうら

蘭

前顔の文有蘭波物老あまきあまき
杖まきまき年浮おき捲らわら
葉まきまき年秋風吹らわら

凝望其影純粋満似鏡人眼位珠
出駕其容秋結靄多し遊娘桃花意
あまあまはあまひつわわさ
そらあまきうらうら

様

松樹子年終は松様花下日自為葉
あまのあま遊遊有柳花くさ
あまのあま様遊世投葉くさ

前中書王

前中書王

直軒

素性

山腰踏石斜
影如虹未
都在中
くらかとらん
けりあり
伊勢

出

切痛之下
腰深
哀秋

思婦心
面秋愁
人耳

霜方欲枯
思若
風枝
出
白

床邊
經
秋
暮
心
前
北
ま

山館
雨
鳴
自
啼
野
多
風
心
織
程
宅

報
多
怨
意
風
鳴
空
底
出
月
多
毫

い
ま
こ
ん
と
き
た
れ
こ
の
め
も
来
林
れ
と

さ
ら
ら
と
い
く
あ
ま
そ
あ
れ
乃
来
れ
素

鹿

暮
暮
路
滑
信
蹄
さ
紅
葉
な
乾
靡
石
林

晴
是
食
草
身
又
家
更
河
如
草
濃
風
来

紀
伊
勢

園實之憂為武溪孤婦之礎（注）山
深感動先後四皓之鬢（注）色

君子夜涼如不寐九年晚晴如
聲之動花無鶴步之初舊為後人
最積元清之憂也夫矣（注）夜驚
平（注）いとわくとととやとと
黄八五

書

曉入梁王之苑雪使群山平

也雪度之梅月明千里

泥河沙漲之子果梅花開一萬株

雪以結元苑有亂人夜驚雪重他個

或逐風之逐必振群鶴之毛亦苗（注）

晴行殘款後之名松之朕（注）

起似得群抽浦鶴心逐宗與採（注）人

村上御殿

謝觀

和漢朗詠集卷下

雜

風曉草

管弦妓

雲松鶴

文韻

晴竹猿酒

山 付山水

水 付漫文

禁中

古京

古官 付故宅

仙家 付隱居

山家

田家

隣家

山寺

佛事

僧

閑居

眺望

錢別

行旅

度中

帝 付宮

親王 付王

丞相 付批

將軍

刺史

詠史

王昭君

妓女

遊女

老人

交友

懷舊

述懷

孝文

祝

憲

無常

白

雜

風

春風暗^カ花^ニ殘^ニ 庭^ニ木^ノ樹^ノ夜^ニ雨^ニ 偷^ニ穿^ニ石^ノ之^ノ音^ヲ

入^レ枉^ニ易^ニ亂^ニ 秋^ニ悵^ニ明^ニ看^ニ 祝^ニ流^ニ水^ノ不^レ

歸^レ 庭^ニ送^ニ列^ニ子^ノ之^ノ業^ヲ

漢^ノ皇^ノ年^ノ以^テ不^レ 餘^ニ者^ノ指^ニ扇^ノ行^ニ然^ル

斑^ニ堆^ニ載^ニ履^ニ 存^ニ在^ニ 尚^ニ列^ニ子^ノ之^ノ業^ヲ 車^ノ之^ノ音^ヲ

輔信

紀納

保胤

慶保胤

あきりせのりくつげくとあふ
にきの紫あはくはしはてま
かのくしありいけいれ月の月けふ
しらもさめらもとおろろを

雲

竹^テ斑^ハ湘^シ浦^ウ雲^{クモ}凝^ル致^ス聽^ク旋^ル風^フ

と奏^テふ巻^キ月^{ツキ}光^ヒ吹^ク蕭^{ソウ}々^々地^チ

中^{チウ}遠^{エン}雲^{ウン}埋^メり多^タ松^{ソウ}雲^{ウン}風^{フウ}散^{サン}接^{セツ}人^{ジン}夢^ム

夜^ヤ日^{ニチ}澄^{セイ}雲^{ウン}心^{シン}や海^{カイ}有^ユ耐^{タイ}見^ミ月^{ツキ}夜^ヤ心^{シン}閑^{カン}

漢^{カン}皓^{コウ}庭^{テイ}英^{エイ}ふく^{フク}初^{シュ}望^{ボウ}徹^{テツ}孤^コ老^{ロウ}月^{ツキ}

陶^{トウ}朱^{シュ}碑^ヒ越^{エツ}々^々書^{ショ}眼^{ガン}淚^{レイ}六^{ロク}湖^コ松^{ソウ}

碧^{ヒキ}信^{シン}所^{ショ}題^{タイ}非^ヒ載^{サイ}名^{メイ}倫^{リン}漢^{カン}法^{ホフ}堂^{ドウ}松^{ソウ}

漢^{カン}帝^{テイ}新^{シン}都^ト殊^{シュ}逢^{フウ}遠^{エン}誰^{タチ}難^{ナン}越^{エツ}去^コ留^{リウ}連^{レン}

そくまの山かまよのりし

晴

猿^イ洞^{ドウ}外^{ガイ}青^{セイ}也^ヤと^ト露^ロ重^{ジュウ}空^{クウ}の^ノ緑^{リキョク}竹^{チキ}低^{テイ}

讀人不知

不殺身の海初明は一松の光燈を捕何
わづらひまのあつまりしはあつる露の
とさそしよひまらうれとまらや

松

但者爰松尚仰下更無一事心
ま山有雪積松性松為雪梅鶴
子文凌雪在松愁影と海百歩

礼同雅取者由之射

九月夜之候之暑月竹舎後午に

言冬まふ雪と寒朝松教若子之徳

十の葉霜は露つる年色る中深

倉西松天更霜統秋林葉火るを定

とさそしよひまらうれとまらや
いまひしよひまらうれとまらや
これらるるをいしよひまらうれとまらや
あましくつるあつるをいしよひまらうれとまらや
にまらうれとまらや

かのそりたるよりとれとあつたり共
あつてもあつてもあつてもあつても
にかあつてもあつてもあつてもあつても
こまもあつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつてもあつても
あつてもあつてもあつてもあつてもあつても

鶴

鳩少人の鶴の位鶴有素行利

とて坂邦一家養生法家屋

同志後之入胡世具異類似屈

原之古楚之名人皆解

たす来枕と子多鶴鶴有素行利

清暖あつと和鶴を光一法竹間院

雙花庭前花落あつと教あつと此一月明時

鶴蹄舊酒里丁今毎之詞了能新

迎新儀陶安とと之駕在眼

飢能性深忘と乳老鶴心困緩と眠

都二二香

九利角錫

長崎

重之

川漢のこゝろを思ひ枕を和風入る寝草
わりのうらやまかみらくまはるゝとらふ
わくことしりてうらやまわらふ
れかそくおしきこらあつらうあり
おもふらありのあつらうあり
わらうらとあけしりらうらやまわらうら
あとりらとあけしりらうらやまわらうら
清正

猿

瑞雲霜滿一たうま玄鶴安天
已後秋涼又夜を和猿の月
江に已後初成字猿の並湯塔の月
三好猿は雲霧は一兼舟中載病也
胡鴈一聲秋夜高客を夢入已
猿三川晚霜の夕人く雲衣
人猿一種村邊猿の空を曉後涼
曉後涼猿の空を林を空を
空を涼園山鳥猿の夕斜陽猿

まのしらすふましらすあしらすあしらす
屋まのうしあしらすあしらすあしらす
男但

管絃付舞妓

一聲鳳後秋鶴奏嵐之雲全乗儀

拍電出虹曉之維山く月

第一身一絃索く秋風拂桂疎豹白ッ

第二身四絃之鳥鶴掠空舞中鳴

第三身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第四身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第五身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第六身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第七身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第八身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第九身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第十身法之鳥鶴掠空舞中鳴

第十一身法之鳥鶴掠空舞中鳴

齊官女御

惟同親王

上カ

文詞付書文

沈詞拂悅者游皇衙御出御側唐
浮深運御の御鳥皇御綴深者も
生る又三才軸と金玉存御門原
上七埋骨不埋の心

言清巧偷鶴鶴古交多子侍風元

錦世院南の書教御珠秋寫珠世

昨日山中之木力取詠之今日

庭花と花詞歎於人

王朗八葉之孫擔徐麓事の四弟

江淹一内之友集此に別駕もまき又

陳孔璋詞の金重宿馬相殿兵法書

贈寄新恩況初を推懸に集世知

いつらり乃かまう母ありはいつらり
あつらり乃かまう母ありはいつらり

F

上

讀入如

陸士衡

元積

唐李商隱

酒

新造の酒は清く味は甘くお酌極楽なり金葉

古来知らず出酒お風流者も喜

音聲或は手割物備嗜酒他

酒地は侍格を度古子も有る

白玉の酒は清く味は甘く

陸風抄は古酒長年人

味は甘くお酌極楽なり金葉

生計物来り酒は清く味は甘く

茶能友酒は清く味は甘く

名は紫の酒は清く味は甘く

味は甘くお酌極楽なり金葉

酒地は侍格を度古子も有る

名は紫の酒は清く味は甘く

江相公

酒気下りぬ樹々玉傳似長美十二
之夢は浮橋の守御乾割に風楢相公
也深建徳此の歩悦橋なるは生息十後中書主
ま勅の事おほは徳孝山をまはる保胤
わりはまのふらりをもとれうらみお鹿登
りしけもさひておぬとにまこと

山

伏魔道に陰着海に雲色を為る賀蘭進

待比をまむ世定ま都山房を山都在中

夜鶴眠る杉月長曉龍は海後中書主

紙扇抱来まるる色に落し後中書主

名教曉真林頂老群深著印以言レ

かのこいしそやまはまうさもさうり計を

くもれわらあゆみれあうやまおひく忠孝

見まこさけはまらのをまうまう三盛

山水

泰山不讓古壤故能成其高李斯

海不賦細流故能成其深一

巴徼一川信舟楫月身公乘德二

胡馬忽鳴失路一黃砂磧裏千

嶺自書山青嶺一漢水白茫茫白

漁舟火氣寒一燒浪一江流一若一知一遠山一

山似簾風江似縵一船來一煙月一的一中一

草木枝疎春風振山祇一暖江澄明

初起一撼一戲一杖一多一字一河伯一之一民一

轉一康一獨一注一之一樓一花一葉一如一春一的一花一

登一每一舟一之一泊一控一波一推一新一

山後山何一之一刺一成一青一散一之一飛一乃一海一

水一誰一家一深一亦一若一淺一之一矣一

山邦遠樹東南望 海峯孤村日暮時 百餘

山來向背斜陽裏 水過溪流逐水間 後江類公

神宮の川を 流る 水は 清く 流る 水は 清く 流る 水は 清く 流る

水 付漁父

島嶼之牧馬 牧馬於野平 沙渺々 謝觀 夕

行跡之征伐 征伐於野平 沙渺々

河為枯の抽 抽は長河 吸き盡す 道は眠

快軍まらる 中を衣 衣は若 若は若 若は若

水清地寒 寒は冷 冷は冷 冷は冷 冷は冷

雲色抄 抄は雲 雲は雲 雲は雲 雲は雲

墨居居 居は墨 墨は墨 墨は墨 墨は墨

林あり ありは林 林は林 林は林 林は林

春物去 去は春 春は春 春は春 春は春

梅梅を 梅梅を 梅梅を 梅梅を 梅梅を

橘乃古人多矣... (vertical calligraphy on the right page)

右の言 付ある

法寺古柳... (vertical calligraphy)

老慵... (vertical calligraphy)

皇似... (vertical calligraphy)

皇武... (vertical calligraphy)

皇武... (vertical calligraphy)

老慵... (vertical calligraphy)

孤花... (vertical calligraphy)

皇武... (vertical calligraphy)

向使... (vertical calligraphy)

月... (vertical calligraphy)

月の... (vertical calligraphy)

いふはるるやいよの行りけり
いふはるるやいよの行りけり

仙家 付るを隠倫

雲中天地乾坤外 萬象皆空
藥爐有火丹砂在 仗雲確無心
山底採薇雲外 狀洞中裁
三臺雲浮空 萬里之福
家詩十二樓之梅柳
身大以花影流於紅樓
鷺同振葉香 夕桂林
探入仙家 難為才日 家
歸看高里 終在七世之
丹室是乃成仙 實為中家
石床面洞風之松 葉抱林
櫻子やまき 葉葉花 花
後江相公

五月一日 山家
高山有古松 松葉白如霜
石室深林下 幽人此独居
一径行松竹 千林尽
松竹
松竹
松竹
松竹

山家

五言古詩集
東晉花開錦
淡月晚秋
王尚書之蓮
紅粉之宿
曲烟弥北
南望
梓於梁

何とまはさる人といふくはいぬへ
わ免りも多しといふりも
まはさる人といふりも
つかひをたする人といふりも
伊勢

降家

四月廿四日 徳和 徳揚 徳直 徳成 徳成
の物 徳成 教 徳成 子 徳成 化 徳成 人
徳成 方 徳成 光 伊 中 徳成 徳成 徳成 下 徳成
徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成
脊 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成
ま 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成
う 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成 徳成
伊勢

山音

子 株 下 徳成 徳成 一 業 舟 中 方 宜 身
更 徳成 作 物 苗 眼 但 有 徳成 徳成 年 洗 我 心
不 以 朝 天 之 門 後 徳成 取 車 下 徳成 家
園 水 之 橋 心 為 徳成 徳成 金

策馬未肯出恩風耀之可歎
登侯侯之文術覺世俗之皆
人焉為家室之出也終門終
三子母家眼前之十二因緣心
衆起西流若何為葉落風吹
山々乃乃乃乃乃乃乃乃乃
多ふもくれぬとさくそさく
おのりしとさくさくさくさく
花出

佛事

月隱堂山寺身廟家之風息
本在寺初樹教之
於此人生世俗文字果相言終
終之候翻為高未也讚仙
衆固轉法輪之海
百千萬劫當提燈十二功德

十方佛土之中以西方為最
九品蓮臺之間雖下品蓮足
雖十惡考行不攝其亦疾風
投而考勞一一人念考必感應
喻之巨海之細消露
昔切利天之安者九十日刻
亦悔懼之控考之器人其跋提河
之機及三子子法之麻人全祀也之
浪洗去消報竹馬之顧雨
打易取剛芬結之長長
念極樂之考一夜山月正者先
旬世之氣三胡洞花欲落
玉盤考之思維管奏被衣僧代結羅人
眼蓮素香清涼水而月長為子入天

保胤

江臣衡

保胤

經齊名

野相

藤原

以佛神事約為經僧祇初欲初宗
中陳有來事者月松相後費等是也
已終末有子年後初得此等之系
いのりしと著りておもひしりかた
あくらくはとらありきかきとに
いし先ていしふとありきと
このまゝいといふとさういふ
いふとさういふとさういふ
わくさうとさういふとさういふ
徳教大師
九條左相府
空也上人
利上御製

偈

美に事雨之等初寒山踏馬去
是松崗之山又既云僧歸
野宿僧田月芳林扶客碎眠
貴有母儀其心道向中先
室有師法堂以億息か其ましく
明鏡名開江流照白雲不看不來

テル張讀
英明
保胤
ノ野相公

親を侍侍を侍侍と云ふ所の侍侍自利相
 鶴田越前守子年官侍老眉世の字若
 源為宗
通
 此のうららきとあそびとわたりきん
 の中ふりふりのうららきとあそびとわたりきん
 れりふりふりといふとあそびとわたりきん
 といふはのさよふたさりきんといふとあそびとわたりきん
 わかぬといふとあそびとわたりきん

困居

不徇記スリミテ東都後道真室有困居白

適之彼之令知皇唐大和歲
 理を安樂之音

官車一と梅甚と十二長張讀シ

際野北道行羅之三千暗老スリ

出思不存深共之少人く處然抽白

名以困居志有日月之時

物新用廣身之者其美老處因者故人白

人間榮耀因緣淺林下幽閑氣味深
官書自負心長別世事堪今口不言
蕙帶常羞維志抽簪於北山之水蘭
梳桂檝欒能於東海之東
都府榜纒看有也視多其杜濤於
晦法出袍首伴月也喧行外竹之風
陶門後絕春初西庭後多叢林碧霜
つとまのあまんとまらと勢くあまのまらり
遍尋

魁中

風龍白浪花不存
出字園東山卷中
躋紫雲西顧家鄉
見天台山之高
長安城之遠樹

江濱臨浦命松を胡水連天為松を
正斜居居端城二月餘不野外飛
老眼易迷殘四日春情難整會陽の
見たりきは居子さううとこころま
やこそそるれううとありけり
平直持
順
甚良

賤別

与君同舍知の心者我人初友一益
前生宿世地思於石出之業業
後會期空需活端於鴻臚之曉海
若飛丹鳥競才流於十年之間
今信益然多之存於三百堂之後
楊岐路濟我之之之去年去年
以之之人之送我竹竹
万葉集來來仙舟日一生西望是正襟
九枝燈表唯約晚一葉母死ふ約新
後江有公
白
義三言
聖相

かろくといわしれうあさこころいり
しまりくまゆくあひしそあふ
しつらうやまかあゆくこころあは
くはつけよあふあはりあひ
たうあわいそやうつけやう
うううううううううううう
三盛

庚申

年長毎芳推子初老
己南流自少庚申
にふかりのえらううううううう
わうやうううううううううう
いんあひとわいとりんあひ
たもあわあうううううううう

帝王

漢高三尺之鈕坐列諸侯張良
一巻之書立也師傳
項王會鴻門亭情於一燈
漢祖臨沛初傷思也
四海安先照漢書同百王理亂為心中

幸_ニ存_ニ世_ニ光_ニ榮_ニ深_ニ長_ニ為_レ仁_ニ壽_ニ化_レ播_レ會_ニ向_レ之_一
 仁_ニ自_ニ在_ニ長_ニ生_ニ殿_ニ不_レ向_ニ善_ニ業_ニ生_ニ每_ニ家_ニ
 仁_ニ流_ニ秋_ニ津_ニ河_ニ之_レ外_ニ惠_ニ慈_ニ成_レ執_レ以_レ心_ニ法_ニ
 閻_ニ羅_ニ作_レ衆_ニ之_レ多_ニ常_ニ用_レ砂_ニ為_レ為_レ
 衆_ニ之_レ頑_ニ洋_ニ之_レ滿_ニ耳_ニ
 梁_ニ之_レ青_ニ持_ニ春_ニ之_レ月_ニ漸_ニ為_レ周_ニ國_ニ稅_ニ
 初_ニ之_レ西_ニ母_ニ之_レ雲_ニ欲_ニ蹄_ニ一_ニ

為_レ之_レ老_ニ心_ニ地_ニ也_ニ好_ニ之_レ文_ニ世_ニ德_ニ化_レ未_ニ必_ニ
 光_ニ于_ニ萬_ニ矣_ニ善_ニ之_レ名_ニ我_ニ者_ニ也_ニ
 榮_ニ祚_ニ期_ニ之_レ秋_ニ三_ニ樂_ニ未_ニ必_ニ善_ニ之_レ未_ニ必_ニ
 皇_ニ南_ニ禮_ニ之_レ述_ニ百_ニ王_ニ程_ニ陪_ニ之_レ主_ニ之_レ是_ニ
 玉_ニ皇_ニ日_ニ隆_ニ文_ニ鳳_ニ見_ニ紅_ニ旗_ニ鳳_ニ出_ニ之_レ音_ニ其_ニ揚_ニ
 刑_ニ殺_ニ浦_ニ朽_ニ堂_ニ之_レ子_ニ之_レ陳_ニ故_ニ者_ニ深_ニ鳥_ニ家_ニ者_ニ

後五相公

藤原公

才相公

たふふらうよさくやこのくらふあゆこころり
いづはとらとらとらやこのを
らんぬまきまきこらふらうらひさねぬあり
ふとせのくらは長とふのまじ
大鶴鶴天皇
小松天皇

親王付王孫

庫車吹樂車音公まも初細馬高家あふ
東平卷之雅景望寧非漢令廢卷也
兼之弟武桂陽鏢文辭公是奇
帝寵愛弟八と連

江都之好劫擬也七尺厚風其流る
淮南之取神也一且乘雲言以色
用卷之知者子道秋風悵望斷湖之
我王孝仍先の徳播油秋風一尺悵
いふ非也人同梓瓊樹枝頭並一花
世也此也人名権再出以平其也一尺悵
いふ非也人同梓瓊樹枝頭並一花
まうかまきこのとらふいもとらねん
菅三品
後三相公
菅雅規
保高
力見

善相付撰政

後漢書上

孝文帝子曼ニ不レ坐レ帛中ヲ身ヲ死シ以為レ美談

二カ孫ニ弘カ身ニ振ル帝ヲ殺シ及テ獲テ謀ニ多ク罪ヲ

百ニ里ノ大ニ乞フ食ヲ於テ道ヲ過リ襦ニ委シ以テ政

竄ニ藏ル劍ニ牛ヲ拉リ車ノ下ニ植シ任ス以テ困

臨ニ以テ國ヲ守ル無レ國者傳ニ統ヲ舟ノ北ニ宿ル人

西京帝ノ門ノ乃チ是レ陳也世ノ相ノ之レ產也宅也
後漢書上

南山之レ洞寧此レ善也司レ統也也レ幽也極也

周ノ且チ老也女ノ主也之レ子也武ノ主也之レ牙也自也
管子

知レ其レ貴也忠也仁也之レ名也白也里也帝也之レ祖也

皇也后也之レ父也世也推也之レ仁也

傳也氏也教也之レ尚也難也風也之レ於也教也之レ於也

者也清也水也之レ於也清也之レ於也漢也之レ於也初也

春也之レ於也南也之レ於也司也之レ於也也也也也也也也也

且南言小鄭之射之漢風詩人
やまゝいふくわくしと多くとこころ
けあらうくまうせあめまふ

將軍

三人知事之求也一張ら現日當心
雲中致馬初約信書外中鶴夜村色
高星採集征馬所年離別故人物
彭山雲龍求將軍之志家額水浪

困養征虜之味仕

穢列席牙隆拒武勇お漢軍七將
學抽麟角遂味く又家おる二千為
雄劍在腰拔則秋霜稠三千人雄貴
自口吟亦寒玉一聲年

勢存劍新し地死馬忠存者欲人
まましくあしあしをわくあしあし
あけまうやんまひあひ

柳良香

判史

古め草まのう月下は夜をまじふ花のあ
精の合浦珠おほひの光は昔の如
陸のるふささるる名もよふは
は一ま句づらま水陸堂とつら
たうま屋ののりりさみまはさり
はあさりひまかり

源史

竹崎の産氏海和深の面我の
宍倉の北平も林葉の物米の乳葉
依の道北葉の席の葉も多初物
かきつらいつらいつらいつらいつら
みつらいつらいつらいつらいつら

王昭表

秋香亭の如林将表の如
此はあつた胡柄骨の如

梁家堂に於て諸君は此の如く
邊境に於ては此の如く
同

如角の如く
同

昭宗の如く
同

板の如く
同

わいまいのやうに
同

女

容の如く
同

女を崔季瑤と小妹

介人
同

婿婿
同

皇位
同

孝道
同

文と
同

江相公

英明

真

元稹

野相公

殊和約月幾らとわん
 五日思ひ違ひ袖刀
 筆をひらきまらぬ
 雙塔と理をいふ
 程神を言ひて
 何れも存し
 備家神性
 欲元今日
 わゆる
 と
 自基宗貞

極女

殊水未の極女
 筆性お困り
 舟中浪上
 和歌後調

海よりこゝろをうつる影よじつひのそふか何よそ
あつぬにさかよわふちらまれ
いほくろの身ははせまのち
かゝるいそわあ〜まけま

交友

琴の清友は捨我雪月花の時獨憶若
陽も西廻る難知溪水空晴老始知
若年願我まの眼今日逢君と白頭
蕭金の舊之出古朝代綿実代交

張儀村とま新才推為若年交友
悲女文籍は因君と菅礼部私見我新
君のついでいづるこゝろをうつるこゝろ
たきとくもいづるこゝろをうつるこゝろ

懷舊

黃壤誰知我白頭獨憶若
將老年海一濤故人交

長秋不若老人を殘年我身竹
秋風滿秋海象下故人多
生の妙産に於ては愛言寂無を
痛みの病は病頭暗王手携はる
金谷研花之址花每春有白
南極教月之人月与秋期身竹
王子若と舞仙はは立祠也
源相規

之月羊を傳之早世幻あり
海於觀山と雲

位能良本も権勢も電耳棠勿
いみしみの舟中一のあつらひ
ひりしははるるしとて人きく
あやしめめふとあつらふ
よの中よあつらふとて人
あつらふとて人きく

述懐

有諸荆湘之盛徵復生強之
投身心為國使命必死

危重以責句漢案偏舟於水
答祀謝花文之之遠巡

於河上
款其積礫不盡親之測者不知

孫彭不備習其弊也石視上

邦者未如英雄之所

人向禍福思難以世之風化老

車前道病為強免祭之雁鳥

事無成身老研鄉ふ主欲何歸

危重以責持扁舟勿地名謝安

功伏孤言之書以志

昇殿是名殿外之張之通俗骨

心踏草集之雲高望者之天下

の里也痛まづ亦い禁其心園之月
給皇元聖道三代の程沈恨同伯
多喜の秋入心ふ多情也

言下暗生消骨尖袋中倫説判人刃

裁鬼一車何と長称聖三没来為元

登三同確終行普国倫英創未必賢

きふらして方のいんらんも屋さいあ

よの中ふらしてもいんらんも屋さいあ

あきとらり金うくくもいんらんも屋さいあ

孝文実

初佩曉鐘書周秋程以者有漢云

浅塘も園二子皇一道風光但意看

忠江以南諸老周君敢推子孫多

吏部尚書職中著純初出世微又

極王福

春道

前千孝旨下

稻依草

讀人不知

蟬丸

藤原重光

暗孝神示

正通ヨリ

鉛魚腰底詳美濃諸君夜回舞曉風
花月一室更著眼也此方望眼今竊
有初志心相知久者先當袖竹馬童
う終くさきとししはそてよつみ斗り
こころいひの身よとあまらめらうか

祝

壽辰人言日執事格万歳お杖束茶
長生如聖壽有秋萬事先上お日月主

わらまかんいふ世りやちうふさうれりあ
いそかかときりこもりのしをまき
うのちとみるこのやうをよりよたう
あかうりこもり

良

為者量意夜出如老や系壽對
向老の口名銘君身主家友を顔
更東初給長門國の守身
月娘園の香あはは

四十一

同十リ

謝儀ナ

休胤ニ

仲登手

長文成

ひさし方物なるは西の嶺に物なる
春風桃李花開日松蔭に相乗るの如
く後宮花田の嶺松蔭桃李未だ結
面初霜猶付寒の嶺松蔭桃李未だ
後江相公

流系空の曠らるる松蔭月
はら園中を平野新雪若新の松蔭
寒園獨り坐す松蔭もはねる涕

貞女没る時乃ら初ら松蔭福は色
わらぬいづく糸を
あふとかさなりとわらふとくりそ
た乃免つこぬよあまこよありぬまは
いりらんといひ
わりゆきの月とまらつてつうか

無き

親能家歌辭集
瑞午南上事ゆの若火光平あはひ

多し来たむお歳年人不同

生も必成程より来先梅檀之松

楽後冬来天人程冬冬冬冬冬

約も初初後世流書方白鹿村刻京

隆親村川中流東道里花右富家

よの中とかあふとふとふとふと

寺中一はゆめううううううう

あううあふふふふふふふふ

と来乃つねりとのつづる屋の甲乃

白

奉旨重篤款堂丹と同日為後漢市

備嘆痛食と歸一内籍後

弘河也に能事林又見林園る為

毛髪飛鳴をて座主就は古咲花お

未之問

後江相公

義孝少將

後江相公

清指法師

出良之

良僧正

謝親

順ナルヲ

同ニ



萬葉集卷之十
 霜降抄 鶴子トビの巻 嵯峨天皇御宇
 乙未年 九月廿一日 庚申ケル
 中村七兵衛板

和漢朗詠集卷之十
 癸丑九月吉日 中村七兵衛板

海邊山人の書



Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style on a yellowed, torn piece of paper. The text is arranged in several vertical columns, with some characters appearing to be part of a larger, possibly obscured, text. The ink is dark and the paper shows signs of age and wear.

柳永口授
此是
梅香
守
遙望
山
雪